

1 津山市重点取組

津山市立津山東中学校

津山市重点課題	誰が(Who)	何を(What)	いつまでに(When)	どのように(How)	達成される児童・生徒像(数値目標)
<b>学びのサイクル(津山モデル)</b> 授業改善と家庭学習をつなぐ つまずき解消	・学方向上担当者 ・教務 ・研究主任 ・各教科担当教員	・家庭学習が生かせる授業づくり ・自主学習(いえがく)の取組 ・生徒向けアンケート調査	・2学期末に中間検証 ・年度末検証	・授業につながる宿題の内容や出し方を教科会で検討する。 ・校内研究授業や日々の授業見学を通して授業づくり、改善に努める。 ・学習内容を定着させる自主学習(いえがく)の工夫。 ・学習内容を広げる自主学習の工夫 ・学期に1回程度のアンケート調査で、学習に対する生徒の意識や学習時間の実態をつかむ。	1時間以上家庭学習をする生徒が70%を超える。
<b>生活習慣の改善</b> スマホ対策と家庭学習の充実 (児童会・生徒会や家庭等)	・生徒会担当 ・各クラス担任 ・PTA ・公民館長	・各学級独自のスマホルールづくり (18学級分のルールが出来上がる) ・PTA ・生徒向けアンケート調査	・6月中を目途にルールを完成させる。	・自分たちの学級で決めたスマホルールを教室掲示し、随時呼びかけを行う。 ・学区内の公民館等にスマホルールを掲示し地域の方にも理解してもらう。 ・PTA役員会や学校だより、HPなどに掲載し保護者に協力していただく。 ・学期1回程度のアンケート調査で、ルールの定着度や生徒の実態をつかむ。	アンケート調査で、「自分たちでつくったスマホルールが守られた」という回答が80%を超える。

2 全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果及び成果と課題

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<p>【学力状況調査の結果】 全国【3年】 ○国語はすべての問題で全国平均を下回っている。 ○数学の「a」と「b」が正の整数のとき、四則計算の結果が正の整数になるとは限らないものを選ぶ」問題の正答率は全国を上回っている。(本校64.0%、全国62.2%) ○事柄が成り立つ理由を説明する問題に課題がある。(本校45.0%、全国59.7%) ○英文を読んで情報を正確に読み取る問題では、全国平均を上回っている。(本校81.2%、全国79.4%) 県【1年】 ○国語、数学共に県平均と比べると正答率が高い。 ○問題の内容「作文」に課題がある。県正答率を大きく下回っていた。 県【2年】 ○国語、数学、英語共に県平均を下回っている。 ○国語「説明文、文学作品の内容を読み取る」「漢字を書くこと」「作文」に課題がある。特に「作文」は県平均を大きく下回っている。 ○数学「1次方程式」「比例式」「関数」「図形」「資料の活用」に課題がある。 ○英語全ての問題で県平均を下回っている。○特に「英作文」に課題がある。</p>	<p>【学習状況調査の結果】 全国【3年】 ○平日の家庭学習時間(1時間以上)の割合が62.9%で、県平均 64.6%、全国平均 69.8%に比べ低い。 ○「自分にはよいところがある」と思っている生徒は 67.1%で、県平均 75.5%、全国平均 74.1%に比べ低い。 ○平日の読書時間が1時間以上の生徒は 13.2%で、県平均 11.2%、全国平均 12.4%に比べ高い。 ○最後までやり遂げてうれしかった経験がある95.9%で、県平均 94.6%、全国平均 93.9%より高い。 県【1年・2年】 ○平日家庭学習時間(1時間以上)の割合が1年生は72.0%、県平均 83.0%、2年生は66.5%、県平均 74.4%と共に県平均より低い。 ○「自分にはよいところがある」と思っている生徒は1年生が 77.4%であり、県平均 80.7%、2年生は 68.5%であり、県平均 75.6%で両学年共に県平均より低い。 ○テレビゲーム(PC携帯等を含む)を2時間以上している生徒の割合は、1年生が 41.4%、県平均 40.8%、2年生が 58.9%、県平均 44.1%で両学年共に高い。 ○スマートフォン等で通話やメール、インターネットを2時間以上している生徒の割合は 1年生が23.5%であり、県平均 20.7%、2年生は 39.6%、県平均 27.1%で両学年共に高い。 ○テレビ等の視聴時間が2時間以上の生徒は1年生が 53.3%であり、県平均 49.7%、2年生は 65.0%、県平均 48.5%で、両学年共に高い。 ○近所の人にあいさつができる生徒が1年生が95.1%(県93.4%)、2年生が90.3%(県90.3%)と良くできている。</p>
<p><b>成果</b></p> <p>○1年生国語では小学校時に繰り返し練習してきたことで、漢字の読み書き等県平均を上回っている。 ○2年生国語では漢字練習と漢字テストを継続して行っていること、朝読書によって語彙が増えていることから、正答率が80%を超えている。 ○英語の毎日ノートを継続していることから、英単語は覚えられている。 ○数学の補充学習や全校統一テストなどの取り組みにより、四則演算の理解については伸びている。 ○家庭学習時間(1時間以上)の割合が、学年が上がるにつれ、県・全国の平均に近づいてきている。</p>	<p><b>課題</b></p> <p>○全学年の国語では、自分の考えを書くなどの作文に課題がある。 ○数学では、「図形」や「方程式」「グラフの読み取り」などが苦手である。 ○英語は接続詞の使い方や長文の内容理解が苦手である。 ○テレビゲームや携帯等での通信を2時間以上している生徒の割合が高い。 ○家庭学習時間(1時間以上)の割合が全学年で県・全国の平均より低い。</p>

3 今後の取組

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
授業ファイブの徹底 振り返り方法の検討・改善 授業規律の再確認	年度末までに	授業ファイブを徹底し、振り返りにより理解が深まったことを、小テストや定期テストなどで確認する。	小テストや単元テストで理解をこまめに確認する。 定期的に教科会を開き、授業改善を図る 補充学習で各教科の基礎・基本を身につけさせる。					
「書くこと」、「話すこと」など表現する場の取 定	2・3学期末	定期テスト等で「書く」、「話す」など表現の問題を意図的に入れ、正当率を伸ばす。	授業の時間を中心に、「書く」、「話す」場を設定し、表現力を伸ばす。 家庭学習にコラムノートを使い、「読む」「書く」力をつける。					
家庭学習の定着と充実	2・3学期末	全学年で家庭学習時間が1時間以上の生徒を岡山県平均まで伸ばす。 「いえがく(自主学習)」の意識がすすよ、方法や評価を時間に関してスマホルールが確認できたかを検証する。 家庭学習は「宿題+いえがく(自主学習)」を生徒、教員、保護者に再度確認する。	授業と家庭学習につながる宿題の内容、出し方を工夫する。 「いえがく(自主学習)」の意識がすすよ、方法や評価を時間に関してスマホルールが確認できたかを検証する。 家庭学習は「宿題+いえがく(自主学習)」を生徒、教員、保護者に再度確認する。					

※達成度 「S:目標を多く上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(60%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組
○授業規律を大切にしていけるよう、引き継ぎ実態や取り組みのすり合わせを行う。 ○スマートフォン、テレビやゲームなどの時間を減らし、家庭学習の時間を増やす取り組みを進める。 ○授業改善が進むよう、小中の職員間で授業見学や交流の取り組みを進める。

保護者・地域へ理解・協力を求めること
○スマートフォン等の使い方について、注意点やルールを確認し、家庭学習の時間が増えるようにする。 ○「家庭学習のスタンダード」等の資料を元に、家庭での学習時間が増え、内容が充実するよう協力をお願いする。